

古今要覧稿卷第二百八十八 草木部



エトロフ 桜
エトロフ 桜四月末花を開く單瓣白色葉鋸齒ふかし山
桜の一種なるべしある人の曰蝦夷の人の矢に此桜の
一年に生長したる條にて作れるものありといへり
エトロフ産文化十二年乙亥
四月念八日縮開圖

ところでこの図は何人の筆か知るよしもないが、例の岩崎灌園は文化十一年二月十九日に古今要覧稿の手伝を命じられている（日本博物学年表）から、この図が灌園の手になったものと思われる。以上すべて推測であるが、この図の余白に「エゾの人の矢に此桜の一年に生長したる條にて作れるものあり」の記事は興味あるかき込である。

（東邦大学薬学部）

○ハトスとカトスヘデラ（久内清孝） Kiyotaka HISAUCHI: A newly given name for *Fatshedera*.

こんな名でよばれている植物があることを耳にした。そこで東京都内の植物商を一巡したところ、*Fatshedera lizei* Hort. として扱われている、Lize 社で作った人工雑種であることが判明した。かつて、奥山春季君からヤツデと西洋キジタとの人工種があると聞いていたので、それを思い出し、*Exotica* の写真とくらべて確認することができた。また最新園芸大辞典にもかいてあるのに気づいた。ところでこの和名がどうなっているかわからなかったところ、上記の名を拾った。よく考えると、この属の名に因んで出来たものと思われるが、ハトスが簡明でよいからこれを使ったらと思う。つまり *Fats* がハトスに *Fatshedera* がカトスヘデラになったものらしい。これだから和名の意味はうかつにきめられないことになる。ついでながら、この植物を最初に日本に持帰られたのは猪熊泰三氏で、本人からきいたところによると、それは昭和32年（1957）で、その翌年業者が斑入りのものを輸入したという。（東邦大学薬学部）